

《キーワード》 歯科麻酔学、麻酔科学

《担当者名》 照光 真

【概 要】

歯科麻酔学特論Ⅰ・実習では、鎮静法と全身麻酔を用いた手術や歯科治療における周術期管理、さらに救急救命法を理解し、施行することができるようにする。個々の症例の全身状態評価と麻酔管理上の問題点を指摘し、その対策を立案し、麻酔担当医として施行する。一次および二次救命処置の理論を理解し、実際に行えるようにトレーニングする。歯科麻酔に関する研究会や学会で症例報告ができるようにする。日本歯科麻酔学会の登録医や認定医取得を目指す。

【学修目標】

1. 麻酔の術前評価ができる
2. 麻酔と周術期管理計画を立案できる
3. 鎮静法と全身麻酔の手技を施行できる
4. 一次・二次救命処置を理解し実行できる
5. 学会等で症例報告ができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	麻酔症例に対する評価と周術期管理の方針をカンファレンスを通して学び、実践する		照光 真
2	全身麻酔と鎮静法の理論や症例報告を論文から学び、抄読会で発表する		照光 真
3	担当した症例の評価や歯科麻酔に関するクリニカルクエッションを掘り起こし、臨床研究に結びつける		照光 真
4	臨床研究の発表方法を演習		照光 真

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、臨床、臨床研究、発表等で評価

【参考書】

歯科麻酔学 第8版 医歯薬出版

【学修の準備】

歯科麻酔に関連した基礎系学問の理解、各種の治療を臨床応用する際の事前の準備、臨床で分からなかったことを自習する

【実務経験】

歯科麻酔を専門とする歯科医：照光 真、吉本 裕代、大桶 華子、藤田 正尚

【実務経験を活かした教育内容】

歯科麻酔を必要とする患者に対し周術期管理を実際の臨床現場で指導する。